

# 八幡堀と町家の434年の道のり

## 八幡商人と家訓・引札

### 通信 八幡堀界隈 瓦 かわら版

2019 Vol.55



八幡商人は、近江商人の中でも早くから活躍しました。豊臣秀次の時代に建設された八幡山城下町には、織田信長の安土城下の商人や、近在の湖東の村々の人々が移住して八幡町民を構成しました。彼らは、中世の近江商人の本場である保内や五箇荘（いずれも現・東近江市）の商人の流れを受け継いでいる。この伝統ある商人の血を受け継いでいることに加えて、信長や秀次が打ち出した築市築座や諸役免除などの先進的な商工政策と、八幡浦は近世の湖上交通の要所、大津堅田とならび湖上三親浦と称され、今日も残る堀割（運河）によって町の商工業活動が展開しました。交通の要衝に位置する八幡の地理的環境は城下の人々を大いに刺激しました。

八幡商人の中には朱印船貿易商として安南（ベトナム）へ渡航した西村太郎右衛門や、シャム（タイ）と交易してシャム染をもたらしたとの伝承のあるシャム口屋勘兵衛（岡地勘兵衛）が現れ、江戸初期に八幡山城が廃城となって城下町でなくなった後も、他に先駆けて国内全域に雄飛する多数の商人を生み出したのです。近江商人というのは、鎌倉時代から江戸時代にかけて活躍し、滋賀県の近江出身の商人から、彼らの大きな特徴として、「一介の商人から、一代で巨万の富を築き、人格者として讃えられている」というものです。

肩に天秤を使って、自分が住んでいる近江の特産品を担いで「持ちくだり」、他の地域に行きつて売りさばっていました。いわゆる「行商」です。そして、そこで上がった利益で、その行く先々の地域の商品を買込み、地元に戻って再び売りさばく「登せ荷」という形でビジネスを大きくしていきました。

そして、利益を大きく稼いだら、行く先々の地域で作り上げたコネクションを使いながら、各地に店舗を出店して、ネットワークを形成し、各店で各地の商品をやりとりしながら、地域による価格差などを上手く駆使して、さらにビジネスを拡大し、時代を超えて、自分のビジネスを繁栄させてきました。

八幡商人の特徴は、日本全国の城下町建設ブームに乗った商人にふさわしく、リスクを

云々するよりも、チャンスに賭ける機敏で胆力のある商人であったこと、それに創業期こそ行商でしたが、やがて三都をはじめ比較的大きな都市に、数は少ないですが大規模な店（大店おおだな）を構え、東西物産の交易にあたったことなどです。

「繁栄」と「繁栄」は違います。繁栄は「今」にフォーカスされていますが、繁栄は「時代を超えて」栄えるという印象があります。

ビジネスをやるんだしたら、今だけ利益が上がって、繁栄するだけでは長続きしませんし、やるんだしたら、誰もが繁栄を目指したいはずなんです。

「先義後利 好富施其徳」

（義を先にし、利を後にすれば栄え、富を好しとし、其の徳を施せ）商いは目先の利益よりも義理人情を第一とし遠きを見ることが大切であると教えています。商売繁盛で利益を得る事は、非常に良い事です。利益追求を後回しにすることで商売繁盛となり、得られた富に見合った人間形成を行い、蓄えた資産に見合った社会貢献をするべきであると教えています。八幡商人西村利右衛門の家訓

企業の社会的責任CSR (corporate social responsibility) とは、企業が倫理的観点から事業活動を通して、自主的に社会に貢献する責任のことです。

ビジネスを「繁栄」させるヒントが、売り手よし、買い手よし、世間よしの「三方よし」に詰まっています。近江商人が培ってきた商いの精神「三方よし」。その意味は、「商い」というのは、売り手も買い手も適正な利益を得て満足する取り引きでなければならぬ。そして、その取り引きが地域社会全体の幸福につながるものでなければならぬ」という共存共栄の精神を表しています。

「売り手よし、買い手よし、世間よし、三方よし」という表現自体は、歴史用語ではなく、近江商人研究においては、昭和63年（1988）ごろ、近江商人研究者の小倉繁一郎氏によって用いられた、近江商人の到達した商いの精神を端的に表した造語です。江戸時代中期に書かれた近江商人の資料の中には、ふる里を遠く離れた他国で商いをする時の心得が記されたものが見られ、表現こそ違え、「売り手よし、買い手よし」と通じる内容が記されています。また、当時の近江商人たちが、郷里や商い場などゆかりある土地で、さまざまに社会貢献をしています。

参考資料/近江商人のふるさとより抜粋

## 近江牛 冬毛利志満

OMI BEEF MORISHIMA

定休日 水曜日 (12/29~1/1)  
 営業時間 11:00~14:30  
 17:00~21:30 (LO 20:00)  
 土日祝 11:00~21:30 (LO 20:00)  
 近江牛毛利志満本店 (駐車場 60台)  
 近江八幡市東川町 866-1 電話 0748-37-4325

## 新年会・歓送迎会に。各種ご贈答に...

近江牛から近江の味と文化へ...

### クイズ 『三方よし』の三方は何によしなのでしょうか。

抽選で引札絵はがき八幡堀絵はがきセットを5名様に進呈します。

◆ご希望の方は答え・郵便番号・住所・氏名・電話番号をご記入の上、官製はがき又はFAXでご応募ください。ご意見ご要望があればお書き添えください。

応募の切 2020年1月10日 必着

※当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

FAX 0748-32-3514

T 523-0837 近江八幡市大杉町30の1 (有ほのぼの館クイズ係)

**当選者発表**

答え…チラシ

堀上町 I-Sさん  
 元玉屋町 H-Iさん  
 大房町 N-Aさん  
 赤尾町 O-Mさん  
 古川町 M-Hさん

## 和食麵処 サガミ

サガミ近江八幡店

新年会／歓送迎会  
 ご予約賜り中  
 飲み放題お一人様1,600円+税  
 2名様以上2時間まで(グループ全員でご注文頂きます)

味の味覚を鮮やかに  
 美味なる料理に舌鼓  
 至福のひとつきに満足あれ  
 お気軽にご利用下さい

店長おすすめ料理  
 近江牛すき鍋とお刺身和膳  
 [50g] 1,990円(+税)

ご予約もお待ちしておりますのでお気軽にご連絡下さいませ。

T 523-0892 近江八幡市出町456  
 営業時間 / 11:00~23:00 (ラストオーダー 22:30)  
 定休日 / 年中無休 TEL 0748-33-4322



トマト倶楽部  
PRESENT

お誕生日・記念日 花束プレゼント (1月の方) 3名様

※必ずお誕生日を明記下さい

花王アタック1キロ8個入り (1ケース) 5名様

[トマトカード番号の記入をお願いします]

\* 小品盆栽フェア 第45回 雅風展 1月12日迄 10名様  
京都市勧業館みやこめっせ

\* 婦人画報創刊 115周年記念特別展 婦人画報と京都 1月20日迄 30名様  
美術館「えき」KYOTO ジェイアー儿京都伊勢丹7階隣接

\* 没後220年 京都の若冲とゆかりの寺 1月20日迄 30名様  
—いのちの輝き— 京都高島屋7階グランドホール

ご希望の方は郵便番号・住所・氏名・電話番号・希望の品一品をご記入の上、官製はがき  
又は FAX で下記販売所まで、ご応募下さい。抽選でお送りします。

締切 花束 12月31日迄 当選者の発表は発送をもって代えさせて  
洗剤、チケット等 頂きます。予めご了承ください。

トマト倶楽部 応募先 〒523-0867 近江八幡市魚屋町元9 京都新聞近江八幡販売所 TEL 32-2743 FAX 32-3504

八幡商人の町

「陰徳善事」陰徳とは人知れず人の高くなるような行善を言います。江戸時代の身分制度の中では、生産を行わない商人は低い階級にあり、一部学者からは幕藩体制の基本である自給自足の体制を破壊する者と批判を受けていました。しかし、近江商人は「儲ければよい」という考えではなく社会的に認められる正当な利益を求め、地場産業の育成も心掛けた。このことが、他業から出入り禁止や障の出しを受けることなく、商いを続けられたのです。多くの近江商人は商品流通の操作によって生まれる差益に依存したり、技術的な取引に手を出すことはつまらない商人のすること述べています。そして、商品が品薄になるとも余分な利益を求めたことをせずまた天候が悪くても運賃が変わらずに利益を確保するなど常に顧客の便宜を考えた商いに徹していました。自分の店や商品の良さを誇りにし、喜ばれ、社会に有益であるように心地よく、世の中に商人の存在意義と価値が認められたのです。



滋賀県で最初に国の重要伝統的建造物群保存地区として選定されました。かつての近江商人の本宅が立ち並んだ通りは見越しの松や白壁の土蔵など、落ち着いた風情と情緒を感じさせてくれます。この新町通りに面して近江八幡市立資料館があり、かつての近江商人の邸宅を見学することが出来ます。

八幡商人を訪ねて、温故知新 (昔の事をたずね求め、そこから新しい知識・見解を導きます。) 八幡堀 八幡堀は天正13年(1585)に豊臣秀次(秀吉の甥)が八幡山に城を築き開町したことに始まります。秀次は、八幡堀と琵琶湖とを繋ぎ、湖上を往来する船を城下内に寄港させることで、人物、情報を集め、さらに楽市楽座制を実施することで城下を大いに活気づけました。 新町通り

- ① 商売は世の為、人の為の奉仕にして、利益はその当然の報酬なり
- ② 店の大小よりも場所の良否、場所の良否よりも品の如何
- ③ 売る前のお世辞より売った後の奉仕、これこそ永遠の客をつくる
- ④ 資金の少なさを憂つなけれ、信用の足らざるを憂うべし
- ⑤ 無理に売るな、客の好むものも売るな、客の為になるものを売れ
- ⑥ 良きものを売るは善なり、良き品を広告して多く売ることがさらに善なり
- ⑦ 紙一枚でも景品はお客様を喜ばせる、つけてあげるものがないときは笑顔で景品にせよ
- ⑧ 正札を守れ、値引きは却って気持ち悪くするくらいが落ちた
- ⑨ 今日の損益を常に考えよ今日の損益を明らかにしないでは、寝につかぬ習慣にせよ
- ⑩ 商売には好況、不況はない、いずれにしても儲けねばならぬ

陰徳善事：人に知られないように善行を施すことです。 陰徳はやがては世間に知られ、陽徳に転じます。 いんとくせんじ 自己顕示や見返りを期待しないという意味も含まれます。



引札グッズ  
引札(ひきふだ)は江戸、明治、大正時代にかけて、商店、問屋、仲買、製造販売元などの宣伝のために作られた広告チラシです。広告の歴史資料としてだけでなく、独特の色合いと大胆な図柄から美術品としての価値もある印刷物として収集の対象ともなっています。この引札をバックやTシャツ、小物入れ、コップやランチヨンマット等の商品が開発されました。オーグラーで店名や名前がオリジナルで入れられます。



引札柄のグッズやTシャツ、オシャレな小物が登場します!  
2020年 春、販売開始!  
詳細はギャラリースペース新町浜のHPにてお知らせします  
<http://www.shinmachiama.com/>  
◎名入れ願線や引札商品をお買い求め頂いた方には引札の不織布トートバックを差し上げます。  
お問合せ：(有)ほのぼの館：ギャラリースペース新町浜 TEL.0748-36-5115又はTEL.0748-33-2914

